



US Training Course for Research and Presentation in Engineering and Science University of California, Davis

理工系大学院生のための 海外研究発表研修コース

工学英語Ⅱ(2単位)への
振替可能

研修コースの 教育目標

- 英語での研究発表能力（プレゼンテーション・論文執筆）を向上
- 研究活動に必要な英語でのコミュニケーション能力を向上
- 米国の理工系大学院における研究環境を知る
- 自己の英語コミュニケーション能力を客観的に知り、英語学習への動機付けを高める
- ホームステイを通してアメリカの社会・文化を知る

研修期間

出発日：2009年8月19日
帰国日：9月17日

参加対象

理工系学部4年生、
理工系大学院生(博士前期・後期課程)
*TOEICスコア500点以上が望ましい

募集人数

30名程度(最少催行人数20名)
*但し1クラスは15名程度の少人数

説明会開催日程

2月26日(木)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-212
2月27日(金)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-212
3月16日(月)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-212
3月17日(火)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-212
4月9日(木)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-212
4月10日(金)【時間】16:30-18:00 【場所】工学研究科 U2-212
4月17日(金)【時間】12:10-13:00 【場所】基礎工学研究科 留学生相談室

<上記日程以外にも、留学生相談部(GSEコモンウエスト1F)で随時説明を行っています>

申込受付期間

4月1日(水)
▶ 5月10日(日)

下記のオンライン申し込みサイトから登録

<http://www.gcn-osaka.jp/q/form.do?qcode=q126>

問い合わせ

工学研究科留学生相談部 (GSEコモンウエスト低層棟1F)
電話 06-6879-8972 (内線 8972/4122) / E-mail: us-program@fsao.eng.osaka-u.ac.jp

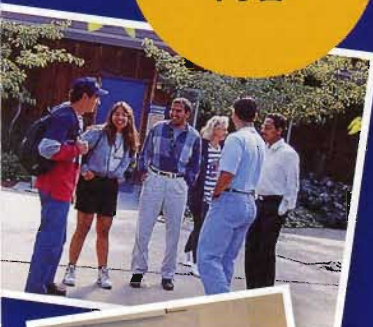
運営組織

工学研究科国際交流室・基礎工学研究科国際交流委員会・サンフランシスコ教育研究センター



**プログラム
内容**

- ベテランの英語指導者と理工系ティーチングアシスタントのコラボレーションによる理工系学生のための専門的指導。英語プレゼンテーション・論文執筆を中心とした集中トレーニング
- 自己の研究について、論文執筆・プレゼンテーショントレーニング
- UC Davisの研究者による特別レクチャーと質疑応答
- 研究室訪問や地元企業へのフィールドトリップ
- UC Davis大学院生のカンパセーションパートナーとの異文化交流
- アメリカ人家庭にホームステイしながら、アメリカの日常文化を体験
- サンフランシスコ・シリコンバレーの企業、大学を訪問

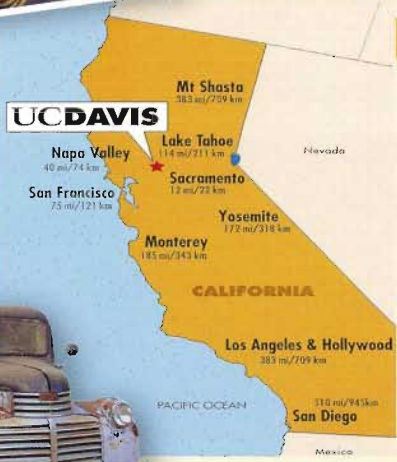


カリフォルニア大学 デービス校について

UC Davisは、サンフランシスコからバスで2時間、カリフォルニア州の州都サクラメント市の郊外、デービス市に位置しています。

約6万人が暮らす小さな街デービスは、その人口の約半数が大学関係者と言われ、5,500エーカー (22.3km²) の広大で緑豊かなキャンパスでは、およそ100カ国の留学生や研究者が学んでいます。

全米トップクラスとされる環境科学やバイオテクノロジーなどの分野に加え、工学、人類学、社会科学、芸術などの分野にも高い評価があり、中でも工学部はUniversity of Californiaシステムの中で最も多くのプログラムを提供しています。



研修HP http://english.fsao.eng.osaka-u.ac.jp/summer_prog/usprog2009.html

研修費用 プログラム費・ホームステイ費・サンフランシスコ研修費 \$3,300程度
 渡航費用 200,000円程度、VISA申請費用 41,000円程度、海外旅行傷害保険 18,000円程度、その他個人的支出が別途必要
 ※費用は概算であり変更になることがあります。

「理工系大学院生のための海外研究発表研修コース」参加者の声



日本ではプレゼンテーションのための授業はありませんが、向こうでは聴衆の気を引く表現法など国際学会で役立つ技術が学べたことが大きな成長でした。



会社にしても、大学にしても超一流を見ることができ、それによって自分の夢が膨らみました。



異文化交流を通して世界を知ることができました。それが自分自身を知ることにもつながったと思います。